

場面における情報セキュリティに対する意識調査

木川 明彦*

Email: akihiko913@yahoo.co.jp

*1: 宮城大学大学院事業構想学研究所

©Key Words SNS, 情報セキュリティ, 公開と共有

1. はじめに

現在の高度情報社会は、個人が扱う情報の量や質、公開の場を急速に拡大させている。こうした動向は、社会の利便性や娯楽性に寄与する一方で、インターネット上のセキュリティ対策や個人での情報管理能力に問題を提起している。こうした中、大学生の情報管理能力はどこまで習熟しているのか、現状を考察したいと考える。また、大学生が社会人になった時、取り扱う情報の量や質・用途や場面は、これまでと比べ物にならないほど多岐にわたるものとなっていると考える。こうした視点から、用途や場面によって、個人の情報管理意識に差が生じるのではないかと考えた。

従って、本稿では、大学生の情報管理能力の習熟度に加え、公開される情報の分類や用途、媒体によって、学生が持つ情報セキュリティ意識に違いがなんであるかということをも明らかにする。研究手法は、仮説検証のため、文献調査や学生に対するアンケートをもって、その考察に資するものとする。

2. 先行研究

独立行政法人情報処理推進機構が公表している『2016年度情報セキュリティに対する意識調査報告書』が、近年でもっとも大掛かりな情報セキュリティ意識調査であると考えられる。なお、この調査は2005年から毎年、パソコンおよびスマートデバイス利用者を対象に、情報セキュリティ対策の実施状況、情報発信に際しての意識、法令遵守に関する意識についてアンケートを実施・集計しているものである。2016年報告書の要点は以下のようになる。

- (1) 悪意ある投稿者の自戒・自省感が減少している。
- (2) “SNSで性的な写真や動画を撮影・投稿する”事に問題があると思う割合が減少している。
- (3) 10代、20代の若い世代で推測されやすいパスワードを避けて設定する事への意識が低い傾向が続いている。
- (4) 若年者の投稿時のマナーに関する項目が年で悪化傾向になっている。

3. アンケート調査

こうした現状を踏まえ、補足する形で筆者はアンケートを実施した。この調査は東京都内に大学に在籍する大学生を対象に、インターネットの利用実態ならびに大学生の情報セキュリティ意識調査のためという目的でアンケートを行った。

3.1 調査概要

アンケートは、全18項目あり、大きく「インターネットの利用環境」2項目、「インターネットの利用に関して」9項目、「SNSの利用に関して」5項目に分類し、講義内で資料配布し、匿名回答をいただいた。本稿では主要なもののみ記載する。

・調査対象および調査期間

東京都内に所在地を有する大学3校に調査協力をしていた。実施期間は2017年6月中に実施した。回答者の属性は以下のとおりである。

学年	1学年	2学年	3学年	4学年	合計
	129人	83人	23人	8人	243人
所属	文系	理系	複合系		合計
	235人	2人	6人		243人

3.2 インターネットの利用環境

(ア)PC以外でよく利用する情報機器はなんですか？

- ・iOS (iPhone シリーズ、iPad シリーズ) (185件)
- ・Android (Galaxy、XPERIA、など) (44件)
- ・Windows (Windows Phone、Mobile など) (13件)
- ・その他(1件)

(イ)PC以外の情報機器にセキュリティ対策ソフトをインストールしていますか？

- ・インストールしている(90件)
- ・インストールしていない(153件)

以上の項目から、セカンドデバイスに対する意識の低さが見てとれる。現在では、パソコンにセキュリティ対策が取られていないことはないと考える。また、利用頻度から考えれば、セカンドデバイスに対するセキュリティ対策は更に必要なように感じられる。

3.3 インターネットの利用に関して

(ア)WEBやインターネットサイトに用いる‘パスワード’や‘ログインID’は個別に管理していますか？

- ・管理している(126件)
- ・管理していない(50件)
- ・個別とは言えないが注意して管理している(67件)

(イ)WEBやインターネットサイトに用いる‘パスワード’や‘ログインID’は定期的に変更していますか？

- ・している(13件)
- ・していない(230件)

(ウ)日頃、インターネットサイト上のパスワード入力画

面や自動ログイン画面に注意を払っていますか？

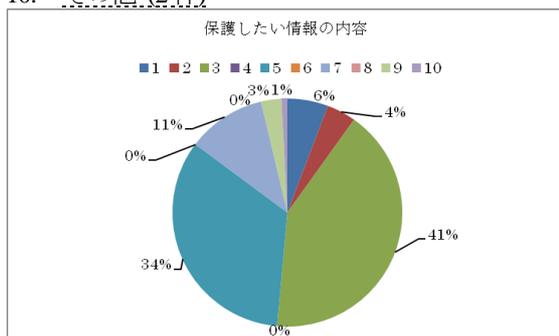
- ・必ず注意している(38件)
- ・たまに注意している(77件)
- ・あまり注意していない(91件)
- ・まったく注意していない(37件)

(エ)WEB上で実施される個人情報入力フォームに危険意識はありますか？

- ・当然ある(170件)
- ・あまり持っていない(73件)

(オ)WEB上にどのような情報を公開するこ1とが一番躊躇されますか？

1. 電子メールアドレスや連絡先(14件)
2. 氏名(10件)
3. 住所や位置情報(101件)
4. 生年月日や性別(0件)
5. マイナンバーやクレジットカード番号(82件)
6. 職業・勤務先・通学先(0件)
7. 銀行の口座情報(27件)
8. ウェブの検索履歴や閲覧履歴(0件)
9. 自分が写っている写真(7件)
10. その他(2件)



個人の情報を守る上で必要な根幹な作業を怠っているようにも感じられる。(オ)の設問に関しては、選択肢が全て個人を特定する項目の中で、重要度が高いものを表している。住所、マイナンバーやクレジットカード情報といった機密性の高い情報に学生の意識が集中していることが見てとれる。

SNSの利用に関して

(ア)他人(友人)の情報の扱い(公開)に注意を払って利用していますか？

- ・注意したことはない(52件)
- ・他人(友人)の情報を公開する場合は友人の許諾をたまにとる(98件)
- ・他人(友人)の情報を公開する場合は友人の許諾を必ずとる(82件)
- ・その他(11件)

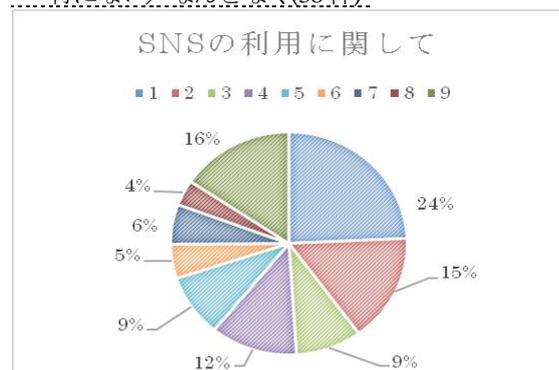
(イ)SNSにおける発言の影響と責任について、あなたが意識として抱いているものに近い項目を選択してください。

- ・個人の情報であれば特に問題ない(34件)
- ・他人(友人)の情報であれば特に問題ない(14件)

- ・自他ともに情報公開には注意が必要(185件)
- ・他人(友人)の情報であっても、友人がプラスの評価を受ける情報であれば問題ない(10件)

(ウ)なぜSNSなどで個人の情報を公開するのですか？

- ・交流のため(59件)
- ・楽しいから(38件)
- ・自己表現や自己アピールのため(22件)
- ・情報や知識を共有するため(29件)
- ・情報を収集するため(22件)
- ・友人や知り合いに近況を伝えるため(12件)
- ・日常生活についての記録のため(14件)
- ・その他(9件)
- ・特にない/なんとなく(38件)



(ア)・(イ)の設問から、SNSの利用に関しては、個人・他人ともに高い情報管理意識が見てとれる。こうした結果は、利用頻度に依拠するものだと考えられる。また、しばしば問題となる「他人の情報の公開」に関して、承諾の必要性を感じている学生が多く、先行研究と少し異なるが、良い方向を示している。

4. 考察

以上のことから、大学生の情報意識は比較的高い水準であると確認することができる。また、場面や用途ごとにおける情報セキュリティ意識の差に関しては、利用頻度や学生の活動状況に関係するものと考えられる。しかし、アンケート調査から、十分な知見が得られたとは考えにくく、追加の情報と照合させていきたいと考える。

5. おわりに

予稿集には、主要なアンケート結果のみをまとめさせていただいた。本大会で、詳細な分析結果を提示させていただきたいと考える。

参考文献

- ・情報処理推進機構「2015年度情報セキュリティに対する意識調査」
<https://www.ipa.go.jp/security/fy27/reports/ishiki/>
- ・情報処理推進機構「2016年度情報セキュリティに対する意識調査」
<http://www.ipa.go.jp/security/fy28/reports/ishiki/>

<http://www.ipa.go.jp/security/fy28/reports/ishiki/>